

「名もなき家事」チェックリスト いつもは誰がやっている？

- | | |
|---|--|
| <p>妻 夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> アイロンがけをする <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 食事の献立を考える <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 調味料を補充・交換する <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ゴミを分類する <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 食べ残しの食品を冷蔵庫にしまう <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 食事の前にテーブルを拭く <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> トイレtp>ーパーがなくなった時、買いに行く <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 洗面所のタオルを取り換える <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 新聞・雑誌などをまとめて捨てる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 脱ぎっぱなしの服をクローゼットやダンスにしまう <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> クリーニングに出す、取りに行く | <p>妻 夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 玄関の靴を揃える <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 町内やマンションの会合に出席する <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 郵便物をチェックする <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 子どもの送迎 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ペット・植物の世話 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 古くなった照明の交換 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ポストに入っていた不要なチラシの処分 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 家電製品の選定・購入・設置 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 使った道具をもとに戻す |
|---|--|

合計：妻 個 夫 個

大和ハウス工業が共働き夫婦の「家事」にたいする意識調査をしたところ、妻は「夫1割：妻9割」が最多だったのに対し、夫は「夫3割：妻7割」と答えた人が最多で、自分は家事をやっていると感じている夫が多くいることが判明しました。その結果から、夫は家事だと思っていない「名もなき家事」の存在が見えてきました。妻は「私がこんなに家事をやっているのに、言われなくても気づいてよ!」と言いたい気持ちをぐっとこらえて、名もなき家事チェックリストを二人でやってみませんか。こんな家事もあったんだとコミュニケーションの機会にしたり、夫と妻の家事にたいする認識のギャップを埋めていくことで、暮らしの満足度が上がってくるかもしれません。



ゆめおーく
無料 秘密厳守
女性相談

面接相談・予約問合せ 電話番号
TEL 0744-47-3090
■第1土曜日 10:30~13:30
■第2・3・4水曜日 9:00~12:00

電話相談専用 電話番号
TEL 0744-29-5153
■第1~4水曜日13:00~16:00
(第5水曜日は休み)

《編集後記》東京五輪・パラリンピック組織委員会前会長の女性蔑視発言は世界でも大きな話題になりました。日本の男女平等・女性活躍がいかに進んでいないか、まだこんな状況なのかを世界に示した事例です。「わかまえる」という言葉には、女性は発言を控えるべきという本音が見え隠れします。上に従うイエスマンでなければ厄介者なのでしょう。私たちの周りにも「〇〇のくせにわかまえる」と平気で言っているような人がまだ残っていないでしょうか。(風味)

橿原市男女共同参画広場 ゆめおーく 〒634-0804 奈良県橿原市内膳町1-6-8 かしはらナビプラザ4階
Tel 0744-47-3090 開館時間 9:00~17:30

ゆめおーくだより

2021
(令和3年)
6月(No.28)

かしはらナビプラザ4階 男女共同参画広場

「家事分担と育児休業」

ぶっちゃん、どう考えてる？



6月23日~29日

男女共同参画週間

毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、さまざまな取組を通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることをめざしています。

橿原市では第3次橿原市男女共同参画行動計画「自分らしく輝く かしはらプラン」に基づき、市民すべての人の人権が尊重され、個性と能力が輝く社会を次世代につないでいくため、男女共同参画広場ゆめおーくを中心にさまざまな事業を展開しています。

新型コロナウイルス感染症が拡大して1年以上が過ぎました。ワクチン接種が始まりましたが、完全収束にはまだ少し時間がかかりそうです。歴史上何度もパンデミック（世界的大流行）により大きく生活様式が変わってきました。今回の新型コロナウイルス感染症拡大での大きな変化は、在宅勤務やオンライン授業、外出自粛などにより家で過ごす時間が増えたことです。いやおうなしにこれまでの生活スタイルや家事の分担割合を変えた人たちも多いかもしれません。今回のゆめおーくだよりでは、生活様式の変化で家事分担がどう変わったか、また家族が増えることで直面する「育児休業をとるの？」について、若い世代を中心に考えを聞いてみました。

妻Aさん 31歳 サービス業 1年間の育児休業中 夫Bさん 40歳 公務員
結婚2年 3カ月の女の子がいます



今年の2月に新しい家族が増えました（拍手！）。妻は今、育児休業中です。コロナ禍での出産で、実家に関東だったので帰ることはせず、出産後は夫の実家でお母さんに助けられました。私の両親は関東から車で私たちに会いに来てくれました。子育て中はまとめて家事をすることができませんが、この子が夜はとにかくよく寝てくれるので寝不足でしんどいということが少ないです。家事については、どっちが何をやるかは決まっています。結婚当初に二人で話して決めたことはお金の流れだけ。二人で「死ぬまで年表」を作って、この頃には何があってどれくらいお金が必要かなどを共有したくらいかな。一緒に生活を始めて、自然と分担ができていってルーティンになっていった。僕は料理が得意じゃない。もちろん妻がしんどい時は作りますが、時間もかかるしおいしくない（笑）。そうめんが線香花火！あわや大惨事？も起こしています。おそうめんって大きな鍋で湯がくけど、そもそも鍋が小さかった。パスタのように放射線状に広げて入れた。火も大きかったので広がったそうめんの先に火がついて線香花火です（笑）。家事分担を決めなかったことは結果的によかったかな。話し合ったとしても決めることのデメリットは決めたことができていないときに責めてしまうこと。ルールに縛られるのもしんどい。相手ができてなかったことをやってあげたら見返りを求めてしまってもよくないかな。あえて決めずに、二人でやっていく中で得意不得意も見えてくるし、カバーし合いながら今のルーティンに落ち着いてきた感じです。

生活の変化は、コロナだからではなく、家族が増えたことで変わりました。今は妻が育児休業中なので仕事をしていない頃に週末に二人でしていた掃除などを平日にやってくれています。上司からも「育児休業は取らないのか？取れるなら取って」と言われましたが取っていません。昇進もあり仕事が忙しくなったこと、家を建てるための金銭的なこと、そして出産後は母の助けもあったし、何より妻が求めていなかった（笑）。たしかに男性の育児休業を取る人は増えています。1週間とか長い人なら1カ月とか。僕は育児休業は取りませんでした。子どもの養育で特別休暇は使っています。

私の会社も育児休業は性別で取りにくいということはないです。もともと人材を大事にしている会社なので、コロナ禍でも雇止めはありません。どのように働けるかを考えてくれる会社です。お互いへの不満…ないですね。不満があったら素直に言ってる。今も、子どもが寝てから二人でお茶を飲みながらいろんなことを話します。二人でいると子どもみたいに楽しいことが多い。

期待しすぎないことかな。子どもが夜泣きをしても彼が起きることはありません。でも、そういうものだと思うので不満はない。相手をコントロールしようとする余計にコントロールできなくなる。コントロールしようと思わないことです。彼はどんなことでもしようという気持ちを持っていることは伝わっている。一緒にいてすごく楽です。

「家事をするのはあたりまえ」という意識が双方にあるから細かく決めなくてもできること。「家事は女性の仕事」という意識がどちらかにあれば、こうはいかないよね。

2組の夫婦とも、笑顔が印象的でとても楽しそうでした。

みなさん、いかがでしたか？ 世代によっては男性の家事や育児への意識がこんなに違うのかと驚かれた人もおられるかもしれません。登場いただいた夫婦と同世代でも「私の夫は『ここ、ほこり溜まってるよ』と、何の報告？という報告をしてくる。気がついたら拭いてほしいわ」という妻からの切実な声も。そう考えると、世代の問題ではなくやはり育った環境やそれぞれの意識なのでしょう。

母親世代の女性たちは、「時代は変わったのよ。性別に関係なく夫婦で家事も育児もするものよ」と公言していても、いざ自分の息子が妻の下着を干していたら？ 息子が夜に起きて子どもにミルクを飲ませている隣で共働きの妻が寝ていたとしたら？ どうぞ息子をほめてください。そして、それができる息子に育てた自分もほめてください。世界が目指すSDGs（持続可能な開発目標）の目標5「ジェンダー平等を実現しよう!」。どの世代でも、まずは自分たちの夫婦や家族の関係からジェンダー平等を実践しましょう。家事分担を話題にコミュニケーションを増やし、実行することでお互いの笑顔が増えていい関係になることが期待できます。

妻Cさん 28歳 化粧品会社 夫Dさん 28歳 建設会社
結婚2年 高校の同級生です

家事分担はどちらが何割と決めているわけではなく、基本、休みの人、早く帰った人ができることをやっています。話し合ったわけではないけど自然にそうなったかな。たとえば、食事のメニューは一週間分を妻が考えて、僕が休みの土日にまとめて買い出しに行く。作るのはその日の帰りが早い人が作ることにしていた。お弁当のおかずは妻が次の休みまでの分を作って冷凍していました。



母が遊びに来てくれた時、部屋を片付けてくれたことがあったんです。そしたら彼に「お母さんにやらせるのはよくない。それは自分たちの仕事でしょ」と言われました。でも、頑張りすぎて倒れたことがあったんです。自分たちで頑張ってきたけど、頼れる力は頼ったほうがいいと考えて、母にSOSを出しました。今は母がいづらか作り置きをしてくれていて助けられています。二人の家事の一番のストレスは料理だったんです。そこを助けてもらって気持ちの余裕ができました。掃除はロボット掃除機に任せています。

私は百貨店勤務なので帰りが遅くなる時もあります。その時、女性の先輩から「早く帰らなくていいの？」と聞かれることがあります。「夫が帰っているの」と答えると、「晩ごはん作らなくていいの？」と心配されるので、「夫が作ってます」と答えるとすごくびっくりされる。びっくりされることにびっくりです。私の帰宅が22時を過ぎると彼が迎えに来てくれます。

コロナで彼の在宅勤務が増えたことで彼が家事をすることが増えました。「不満じゃない？」と聞くと、「別に嫌じゃない。もともとCちゃんができないことはわかってたし、家事をしてもらうことが目的で結婚したんじゃないから」と言っていました。付き合っている間も私たちはフィフティフィフティでした。お金もすべてワリカンでしたね。

子どもができて働き続けます。2年間の育児休業中は会社から6割のお給料が出て、復帰後3か月働いたら残りの4割分を復職祝い金としてもらえます。女性が多い会社なので働き続けることができる制度が整っていると思います。バースデー休暇やアニバーサリー休暇もあって、上司が休暇を取るように声をかけてくれます。

僕の会社も男性の育児休業を推奨しています。入社後すぐ上司から「彼女はいるのか？」と聞かれて、なぜプライベートまで聞かれるのか、ハラスメントかと思ったりしました。上司は結婚を考えているなら勤務地も含めて将来のビジョンを聞いていたんです。男性が育児休業を取りやすい環境でもあります。最近も2か月育児休業を取った男性がいます。その部署だけが仕事が増える

ことのないように、ほかの支店でもカバーできる仕組みになっています。会社は「ワークライフバランスを大切にしていることが、人材確保のためには必須だ」という考えです。もちろん僕も育児休業を取るつもりです。

HOUSEWORK

